茶湯早指南　三

473

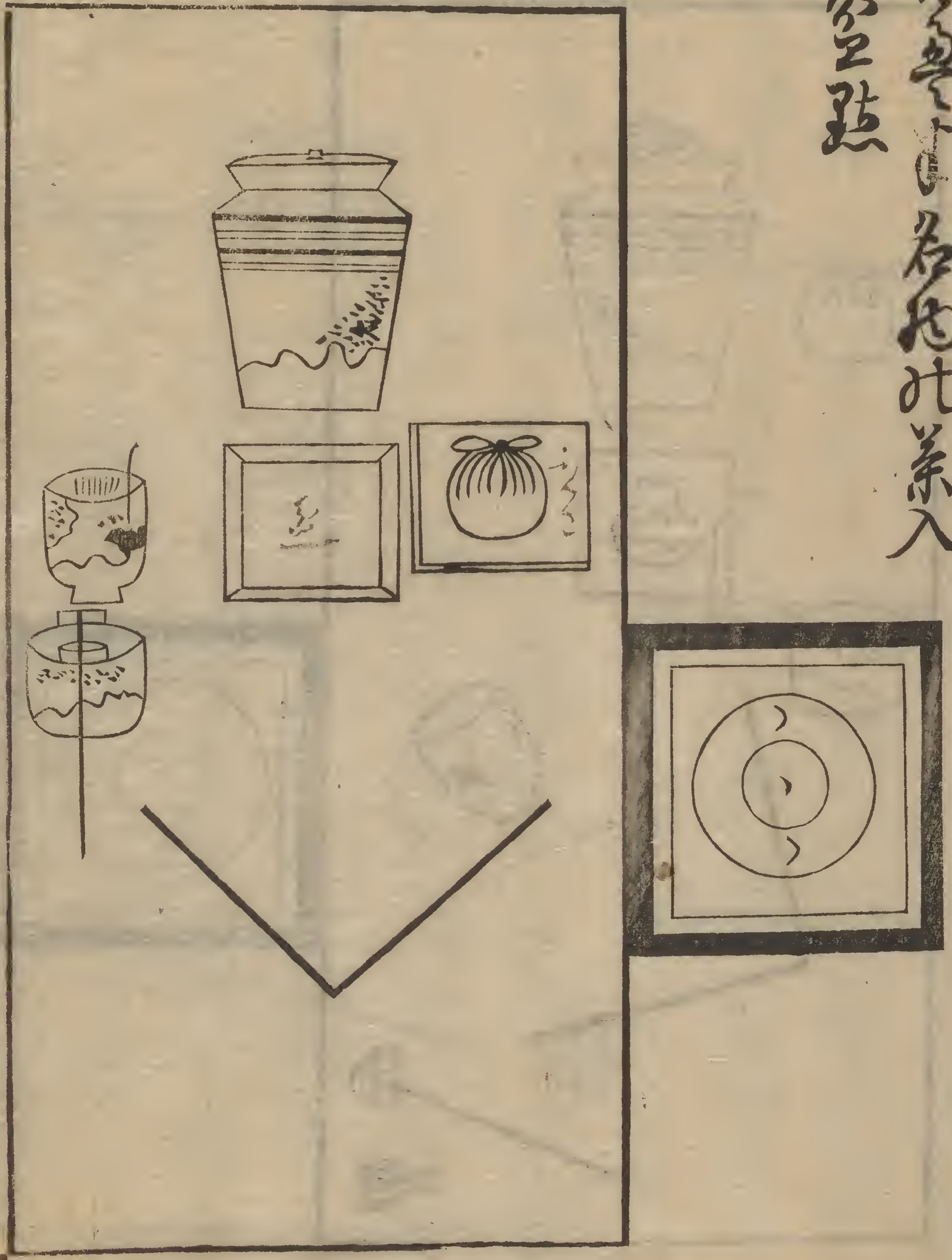
茶之湯真臺子三之巻目録

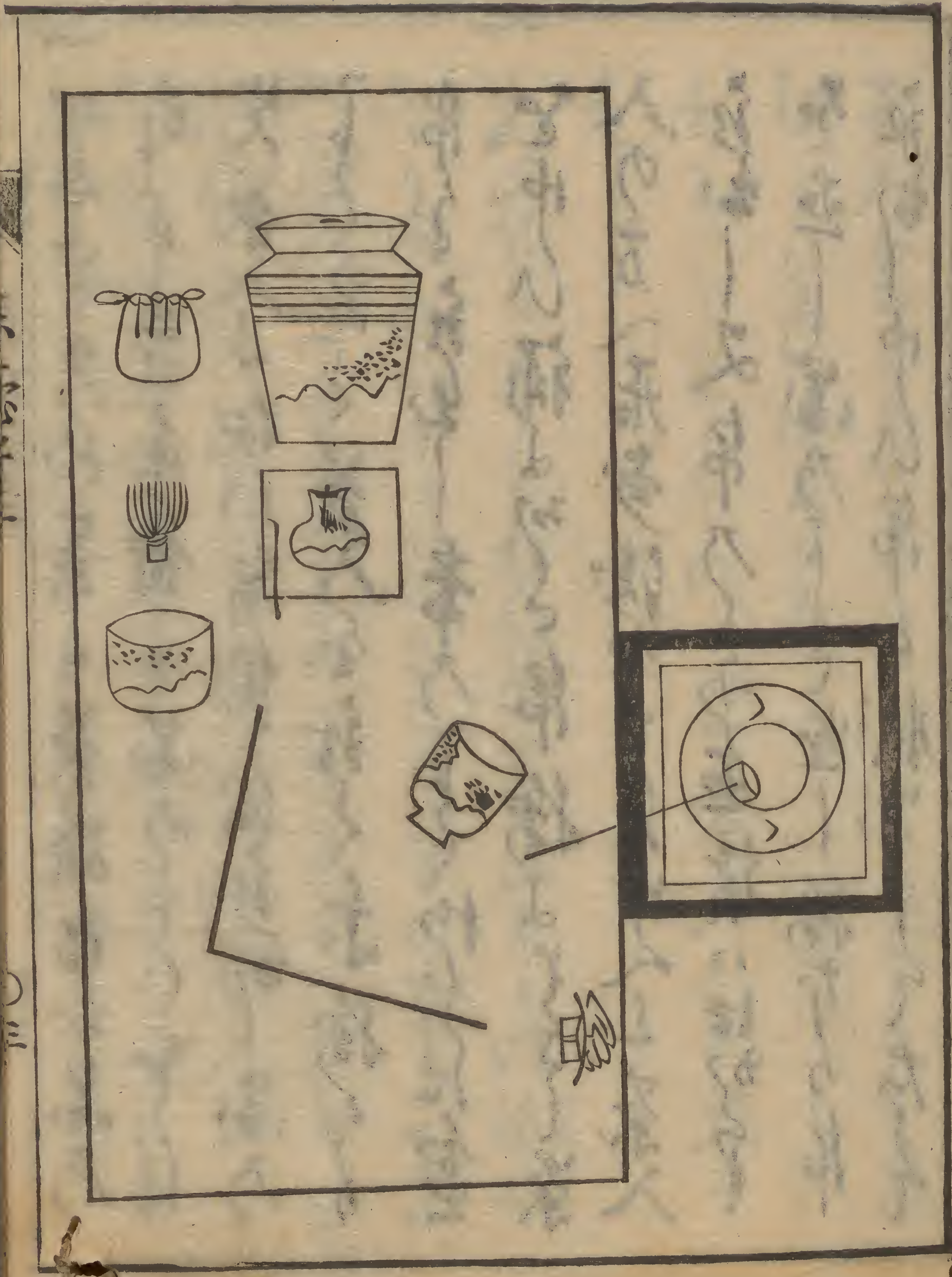
四方盆肩衝茶入盆點
真の臺子兩漢の盆點
松の木盆并御成の盆點
御成銅鐵臺子封改水定の習
貴人白湯上様之習
茶籠點上段之習
茶籠點中段之習
茶籠點下段之習
長板風炉重茶碗點習

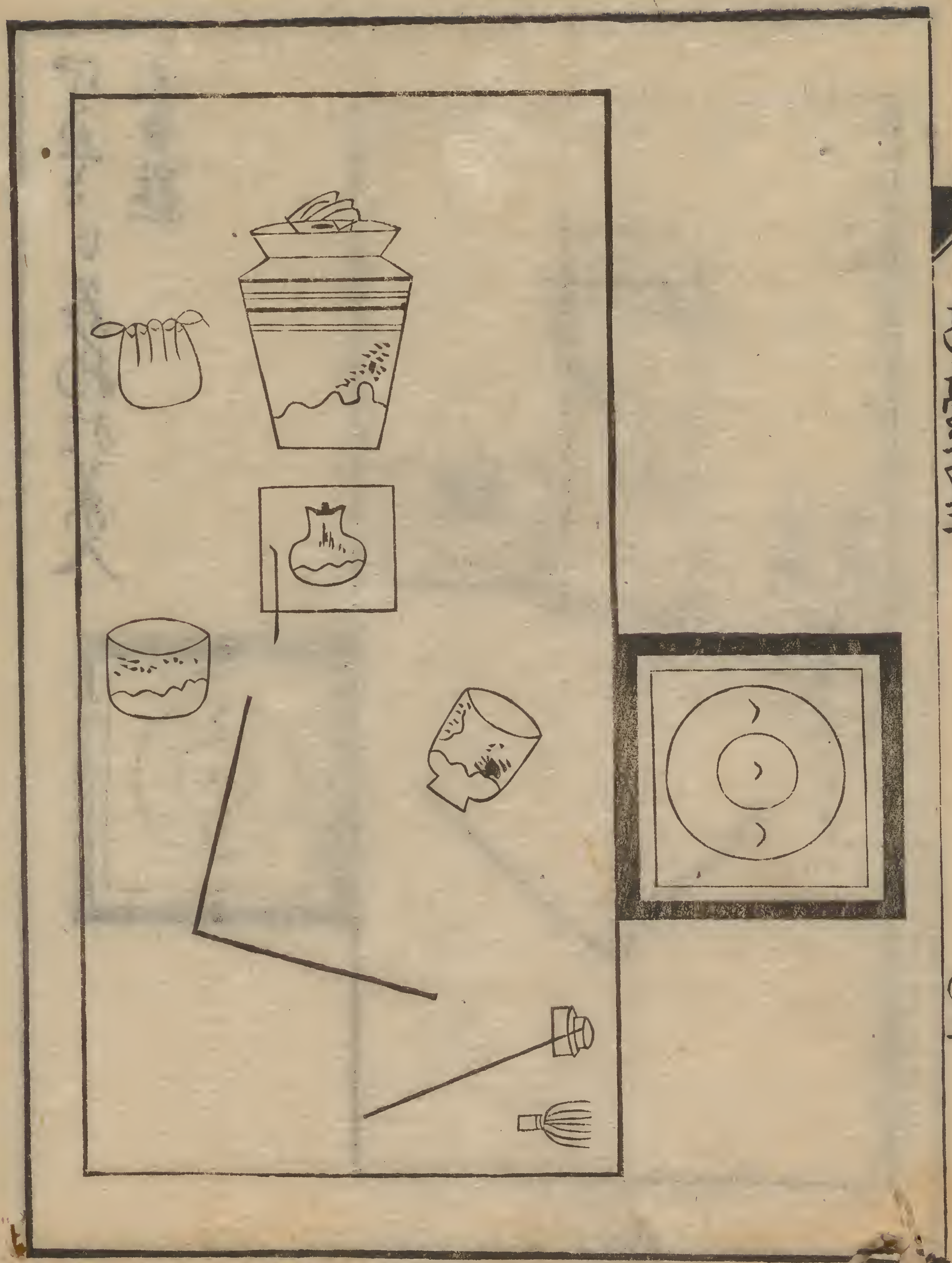
7047

小倭壺茶通若齋惻幌兼盖里習

國焼名物茶入
盆點







一 風呂先ハ茶碗ニ茶杓茶筅器乃
まへにおき蓋置も器のうしろにおく
先茶入ニ向ひ帛紗をさばき器乃
ごとく茶入をとり常の扱ひの
帛紗をさばき常のごとく取りて置
をとひ拭ふによりさて帛紗扱ふよろしく茶
入の方へ居緒(ヲ)をとりて中へ入茶入
をさばし又帛乃上に置袋ハ口かゝり
をおし蓋乃うへ出し扱なる帛
疊ひ帛を懐中(クワイチウ)して出て

茶入置て茶常のごとく居じまひはすへ
むかひ扱ひ濃(ロウ)茶を点る人と云ハ無とも扱
云ふ事を重の事也常乃盆點の
ごとし

一 長緒ハ棗を取扱の薄茶ニ用る結(ケツ)構(カウ)
なる物あるいはいにしへもの事にハ茶
入拝(ハイ)見(ケン)仕まつりとぞ云棗をひげゆへに
御用ニ付乍らと云又ハ此茶入何く
乃茶入よりか御用ニかく召して今日お
しゆと云又帛を出茶入を無事調

名しあるかひもの付けよろしれは候へ
あるか飾りやうにて御きん立之
一茶碗の茶入とりあつかひ古きに茶の新き
茶入ハ唐物のうちにみくもし形よき茶の
あるハ古瀬戸ハ茶のあるハ本歌の茶
入なり品文ハ得多し
あまりよしハ茶入の形にそれぞれの
茶を付のは志るしなり道具の
茶碗の盆点をすれハ作法よく
さらとしるは当つかまつる

真の台子両溪の盆点

一両漢とハ云茶入唐物の内にても
茄子(ナスビ)文琳(ブンリン)丸壺の類にて世に人の
知らぬ茶入又ハ古瀬戸の内にて
も人の知らぬ物を中古乃内まで
も其外の茶入盆にハ挟(フカサ)盆ハ
宗匠所持(シヨヂ)乃盆ハ唐物ハ掃(キヤリ)たる
盆とも両漢の遊茶ニ用ゆ之

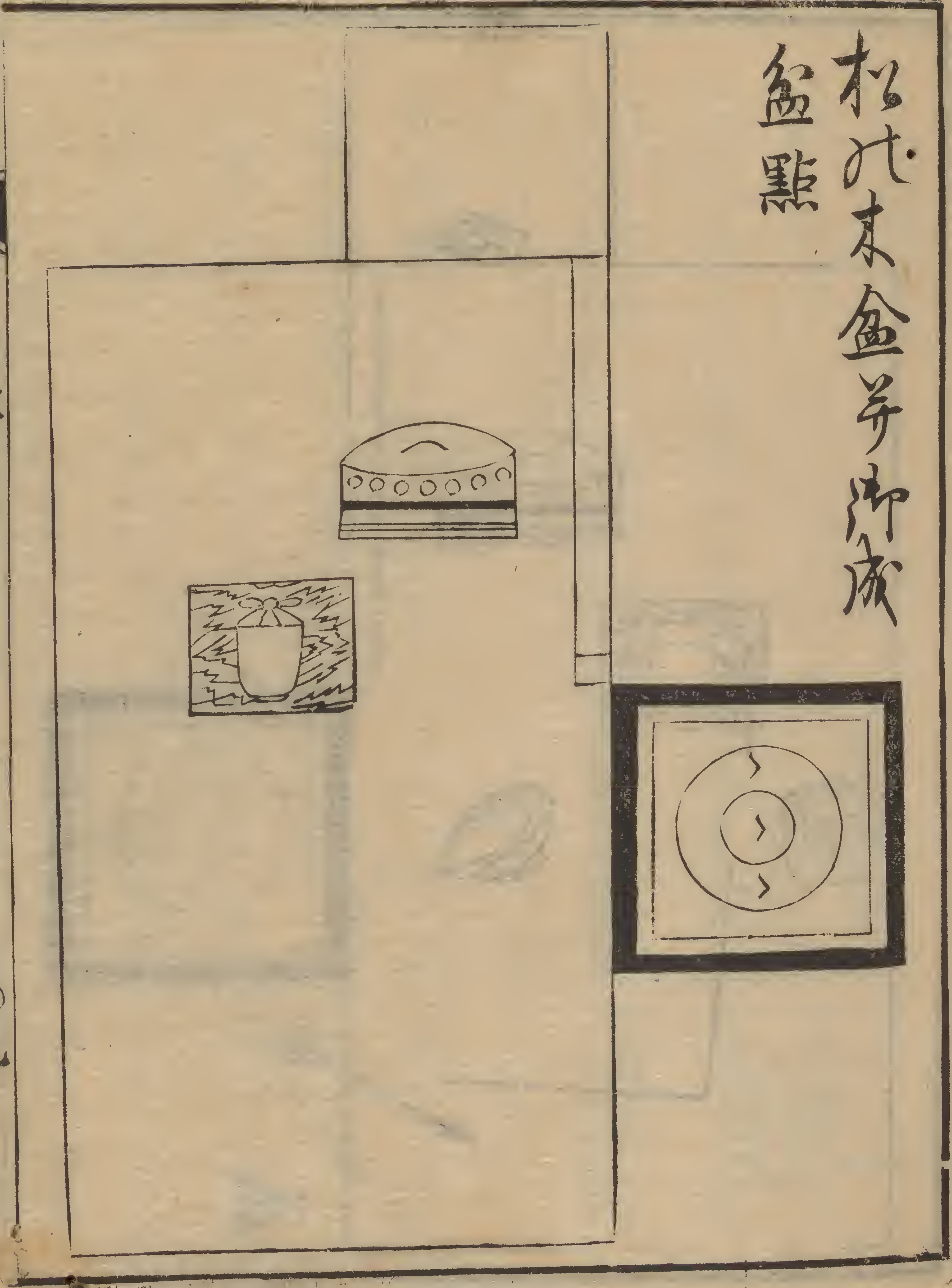
一天井にある盆茶入ハ上ミより下(ヲロ)し如
常點かへたり先茶入をとりく
口の蓋をとらぬ様にふき帛乃
ことくふきて如此扱緒ある帛をそへて
常のことく拭ひ先盆を拭ふへし
扱緒は棗(ナツ)し帛ハ緒ありて茶
入を袋たゝミおろし中にて茶入を
出し下に置袋の如く天井へ上
帛をさばし中ハ帛ハ懐に入て又
て盆に茶杓へし茶扱を巾ひ帛乃
ありく盆より如く盆にかゑぬ右
盆點にかへる事なし

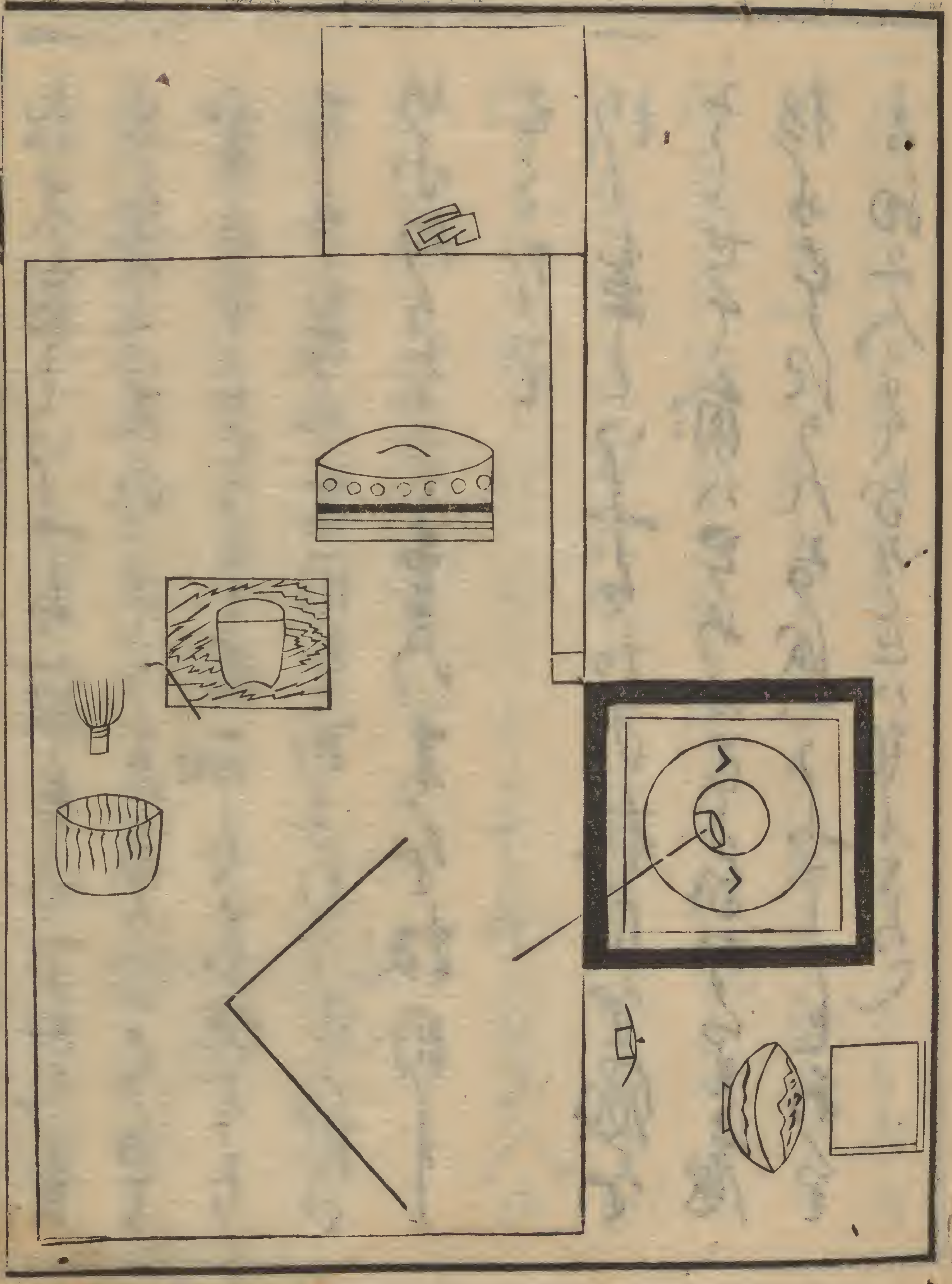
一大扱ハ茶入を袋に入ながら盃(カリ)何より

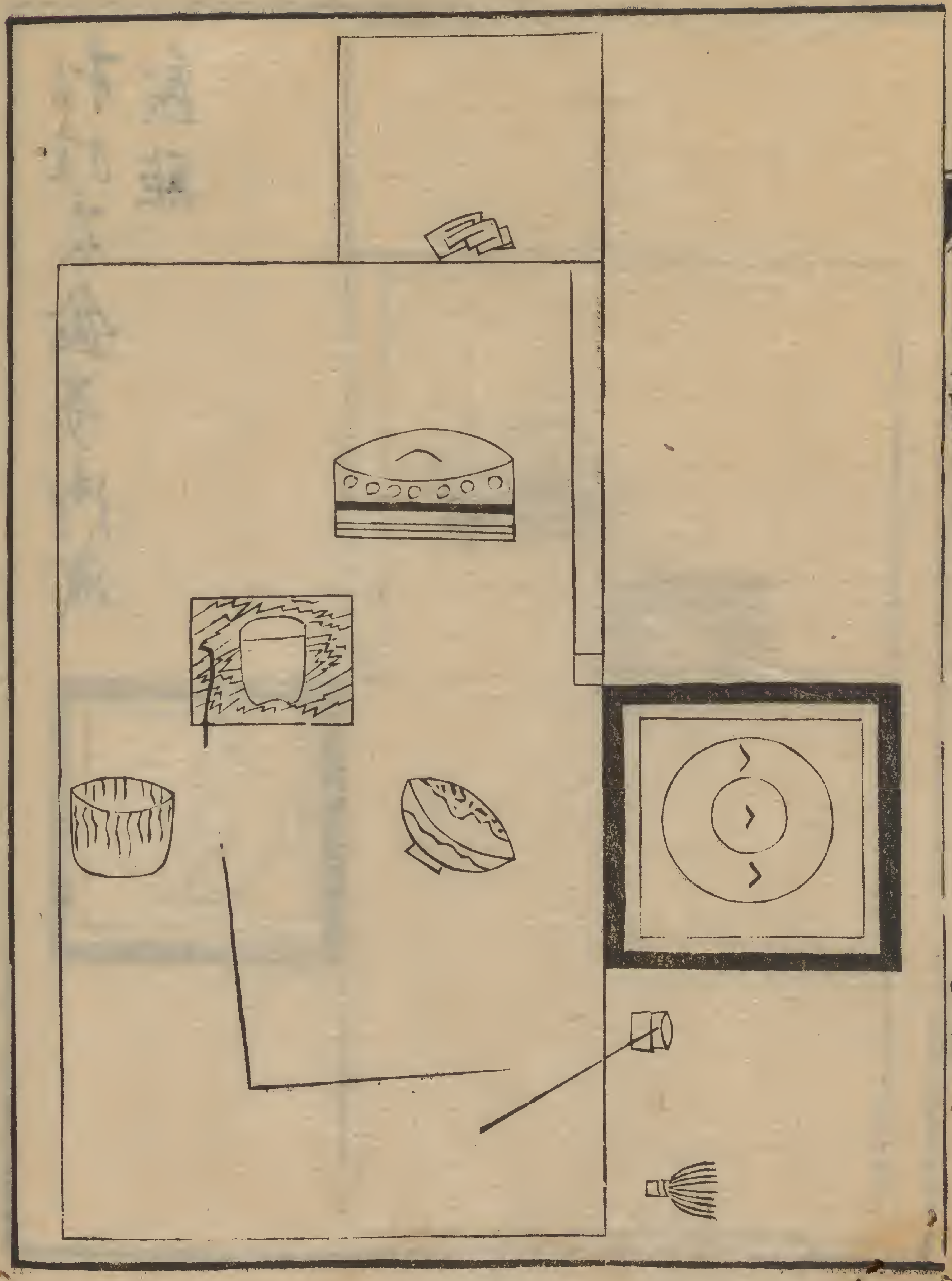
或人何に云茶ハ不云してあつと
感(カン)ぜ無し事とも此体(テイ)を守りし損ん
事も物数なりしかりへし然れ共
乃道とする時先程よりは法様(チツカウ)なる
御相答(アヒシラヒ)別而殊更御茶入を清
めするを云ていにしへ上下(トゲ)をしれ御
ハ此間にかく無ふようと云て茶入常の
しく仕ひ出し無し家名と出
つゝ成と云ハ用しく仕ひ出しへし此時
ハ帛をこうれなる也

茶入を以て建おしては茶巾のを
用(リヤウ)漢(カン)と見くらへてお建
袋をハかざりとこれくお用ひ
置ハかんあくあわし宜(シルニ)りて
事婦ゆめあつとかんする心めて
おりし入あるてらはんしへし

松花末盆并御成盆點







一松木盆といふハ称云の一枚之真
木盆ハ木のまゝにてとくさにて
盆の形にかなへり式正ハ木地なり
たとへ盆ニ木目を行つゝしたしき
所ニぬりたる真乃木を板目ニ
するなり

一行盆といふハ松の板目を縁を
とらせて角ハ四方ニまるくなるを底
板ニはりつけたるものにて有
に細工人とてさまざまハなしとそ

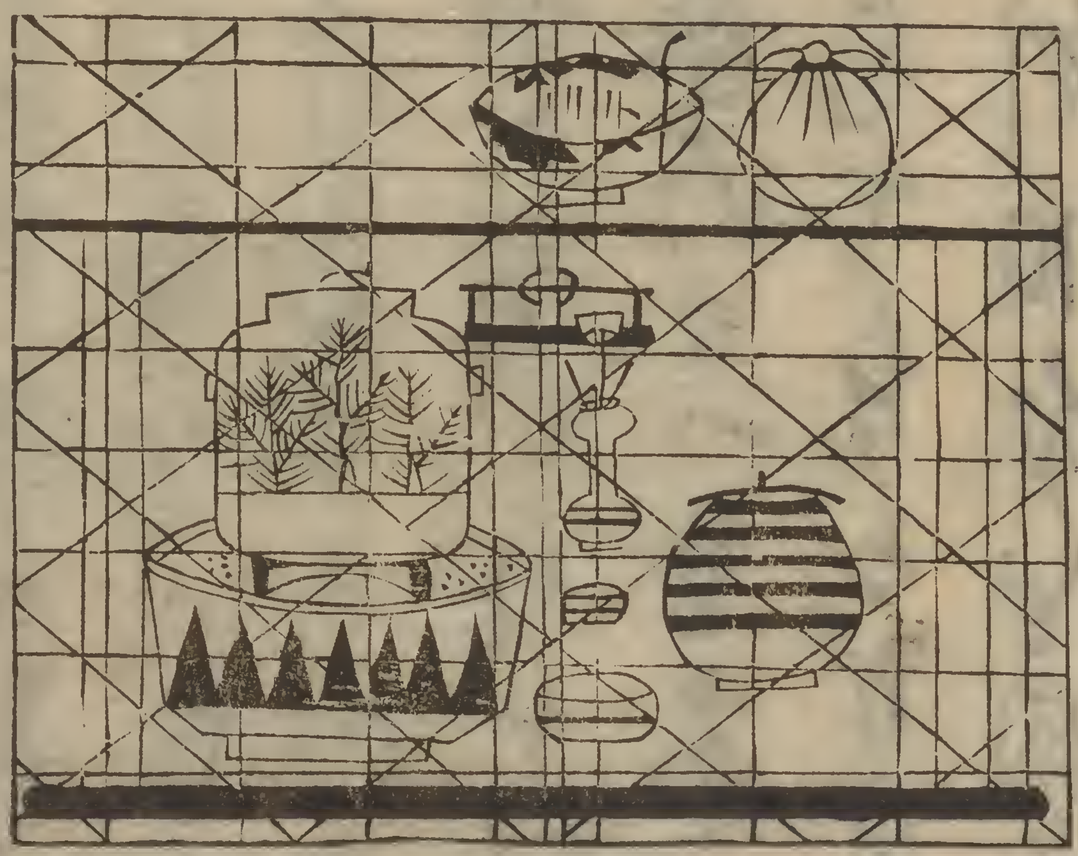
一御成の時かざるへき茶入ハ一ト入たる
きまゝつく出して真の盆ニ安置
其茶ハ點てる出した中へ立
湯を出ハ乃ニ置盆と布巾
たゝく出しての上へし上ニ茶入の
盆たてるハかなふ事なし

一松木盆乃大きさハ利休形
なしハ寸法も有り

一前掛ハかゝるなし古来の時代物
なしハ先へし盆ハ先をなし

古き棚乃木盆に花生を置
時宜よりあるべし
御成には[illegible]袋入
棚乃木盆への[illegible]
松乃木の盆には[illegible]井乃[illegible]て
茶のめあてへし[illegible]

御成綱紙菓子封改氷定之暦



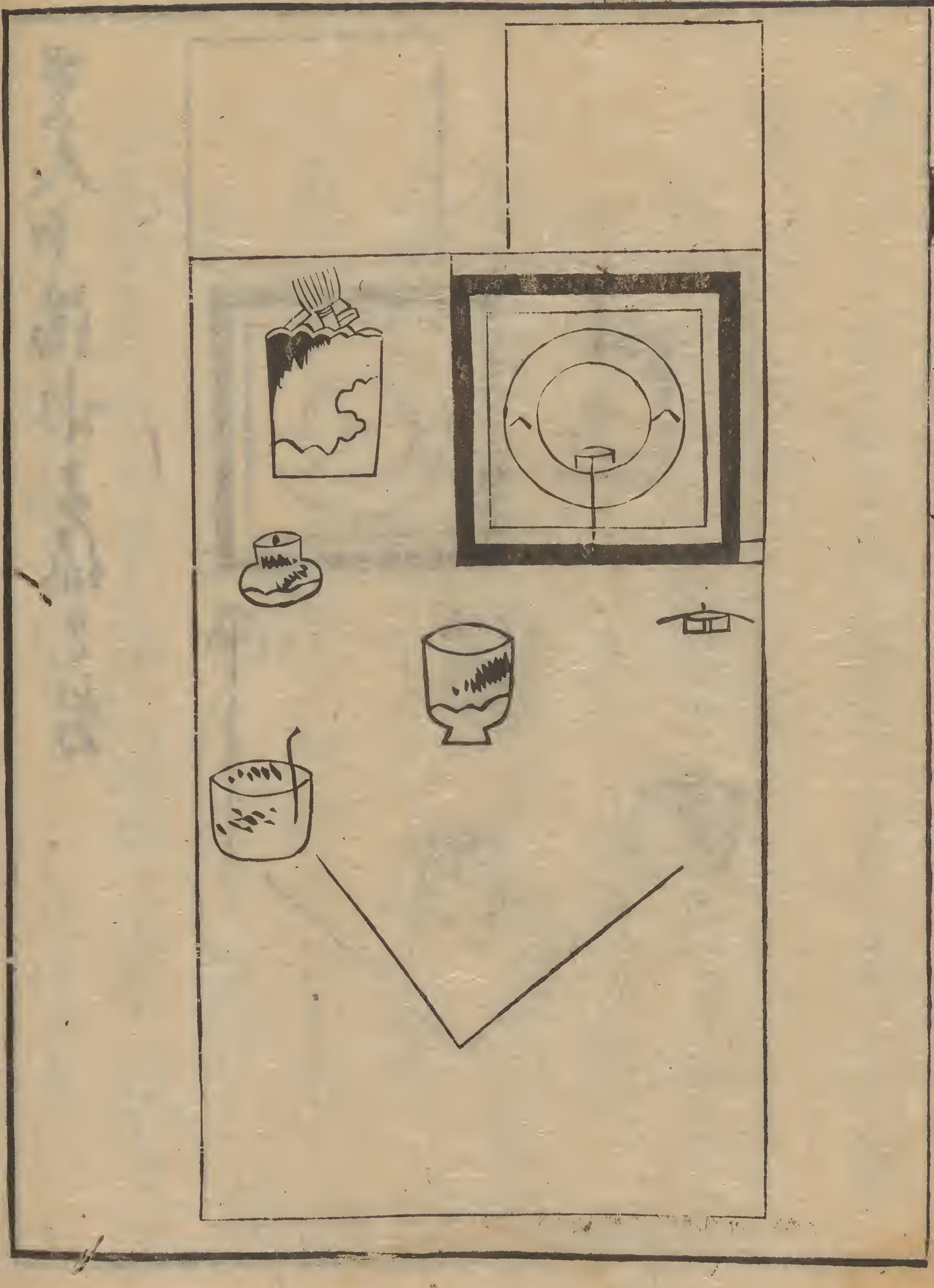
一　闕急の甚子ニ云ハ御成之時ニ御懸かりに
甚子を荘(カザ)る甚うるあらバ口ろより
来りけるをハ清右衛門やうめ
来りけるとのをハ三中(ミナカ)ニ為
ぢやうをおろくへし封(フウ)改(アラタメ)見らふハ
御数寄屋めつも当日ニ来る人よ封(フウ)
を見て封るハゝ御茶を點るに
時別日付を同しくして日のまゝ
みなく封を切る後頂(ジヤウ)と的御茶
を點るなり先公(キミ)の御目ゐるハ

かくの仕形(シカタ)なり
一　水こぼしといふハ御成乃おり日に前
かくしも先水を二三度こぼさせ
御目つもを汲(コヒ)請(ウケ)水めて改(アラタメ)むさ
竹のかうと掛(カツ)波水を手て絶て入て
其中へ水を汲候て御茶の水
と定む取合ふ一てい火をつよく
してよくせんし候お焼の壺(ツボ)よ入
置候し当日入候らしらん所へまい
かなし候おやさきハ毒(ドク)とさるとか

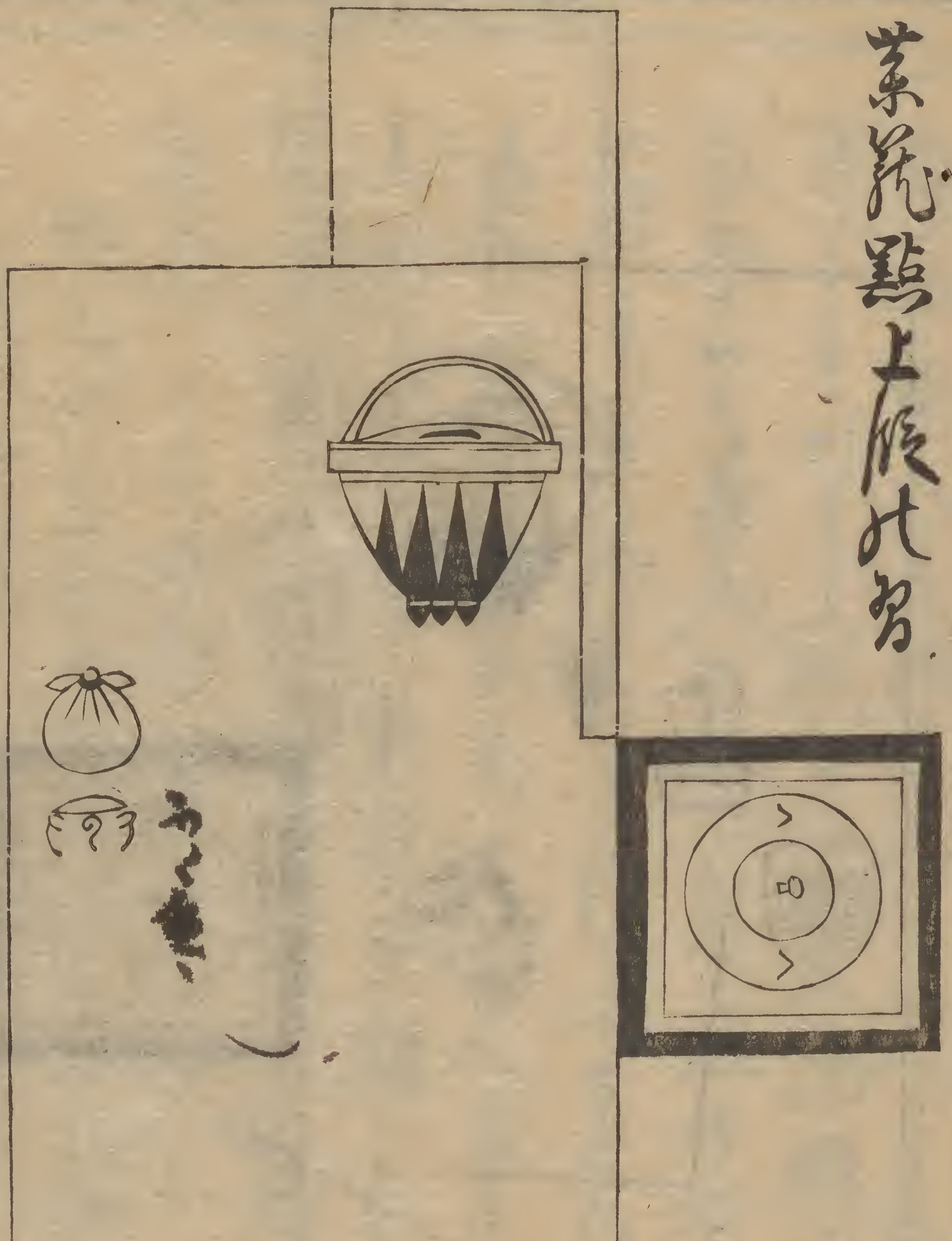
傳へしなを又水をよく〳〵おゆ
ゆゑいふなり
あしかけ乃臺子の八極あれつる合て
おすりの府乃ゆきしめりちるを
水覚おなをものまへの網（アミダ）すをを
手すめありぬをくみよ汲てあけ
月ふりもて猫（カロ）さを水のことにして
たてさ参りくせんしてそおく
武士（モノヽフ）乃つとめ宇治川のなりまてある
お菓の水よれよりしといふなれ

貴人ニ湯水上様之図

一御茶を點てまへるにハなにごとなりとも茶
滌(スヽ)く湯を御建(コボ)にすてあるべしその時に
思ひ寄事あれハそのところを人へ尋ねあるべし
其の外申へ膳(ヤラセ)を付るなり扇にて
らちて、とくとめさしの蓋をしめ茶
杓を盥(コボシ)の上に直しあるべし棚ハこれを
それへよる茶釜ともに茶杓を
も何れも茶入とならべ置事もあるべし
湯すこしもちいしく茶巾にてぬぐ
ひ又湯を入その後にうすき湯をよくさ

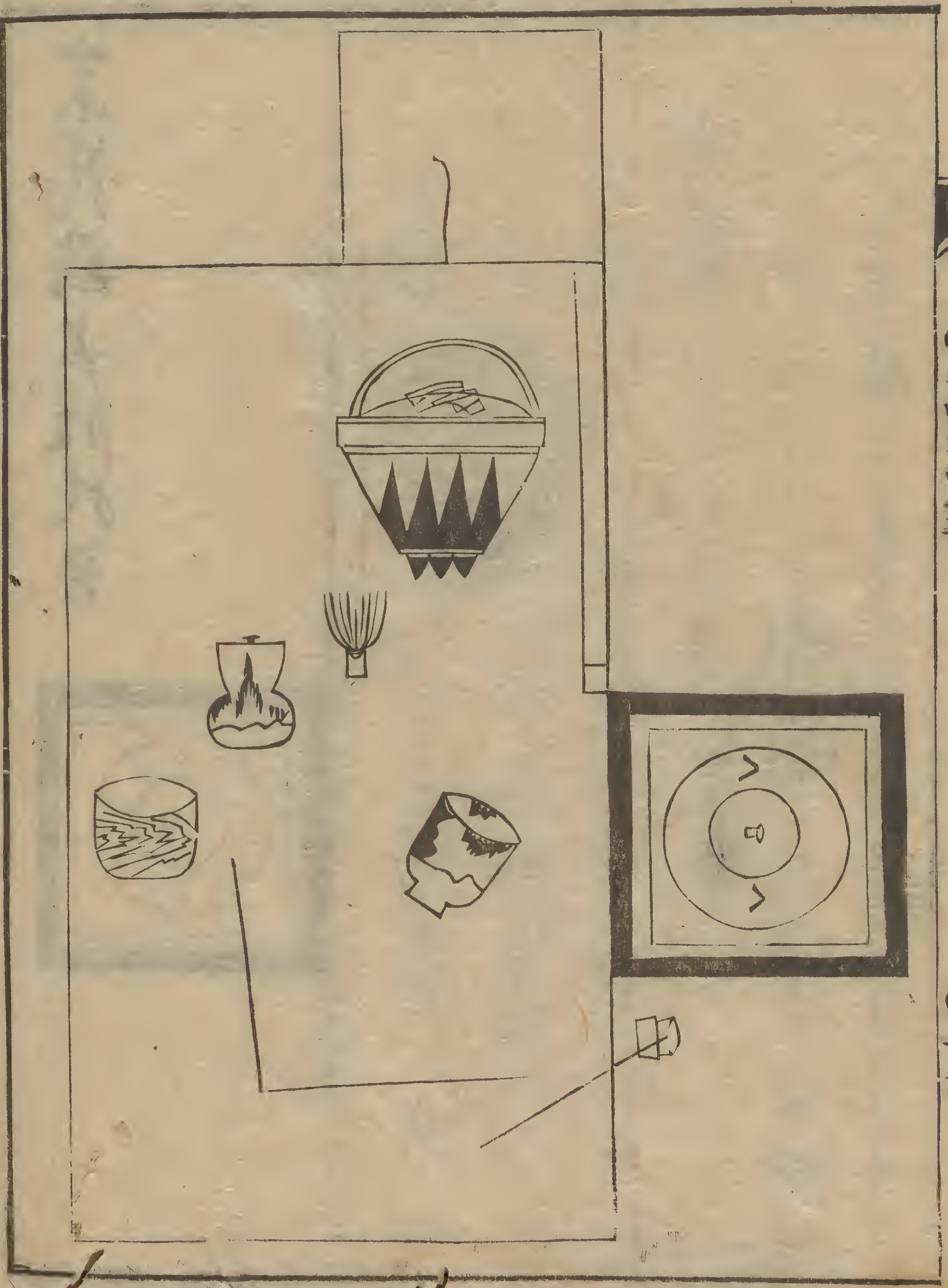


茶筅點上様此当



頭巾入無しそめく御あみいとう
ちよおく申さるゝその所々附の
機嫌(キゲン)吉ていたす也
御茶がすこし湯かつとけハそのしるし
ていしめのげざを見んが書あて
御茶をとして湯わかし葉をゆへん
これみなみないをつゆくしなけ

一 肩衝茶入を持(モチ)出る事もあるへし然ども
なつめと申は同じく此薬(ヤ)籠(ラウ)点前にて
用ゆれば茶入の扱(アツカヒ)然点の心なれ
薬も茶器を手流へさる様に
よろし茶入は大かた跡へおくもの也
上段(ジヤウダン)に心得茶杓と棚よろし
なれば茶入の蓋は手取く茶杓を
取るしてのせんうよろし
やうなくとにひかえおいて所作(シヨサ)すれは
所の作法されてせんもよろし



上中下三のしなあり口受あるへし
なほ道の事も師にもとめてしるへ

茶籠點中脫の図

一此茶入ニハ鐶(カン)付(ツキ)とハ不云 唐物の 濃地

古瀬戸ニ而あつきものなれバ 盆ニ而

も茶かけなれバ 薄茶を一枚盆にも

又ハさんぶニもまた 又ハ割(ワリ)蓋(ブタ)

にも正しき茶杓 組紐ニ作る也

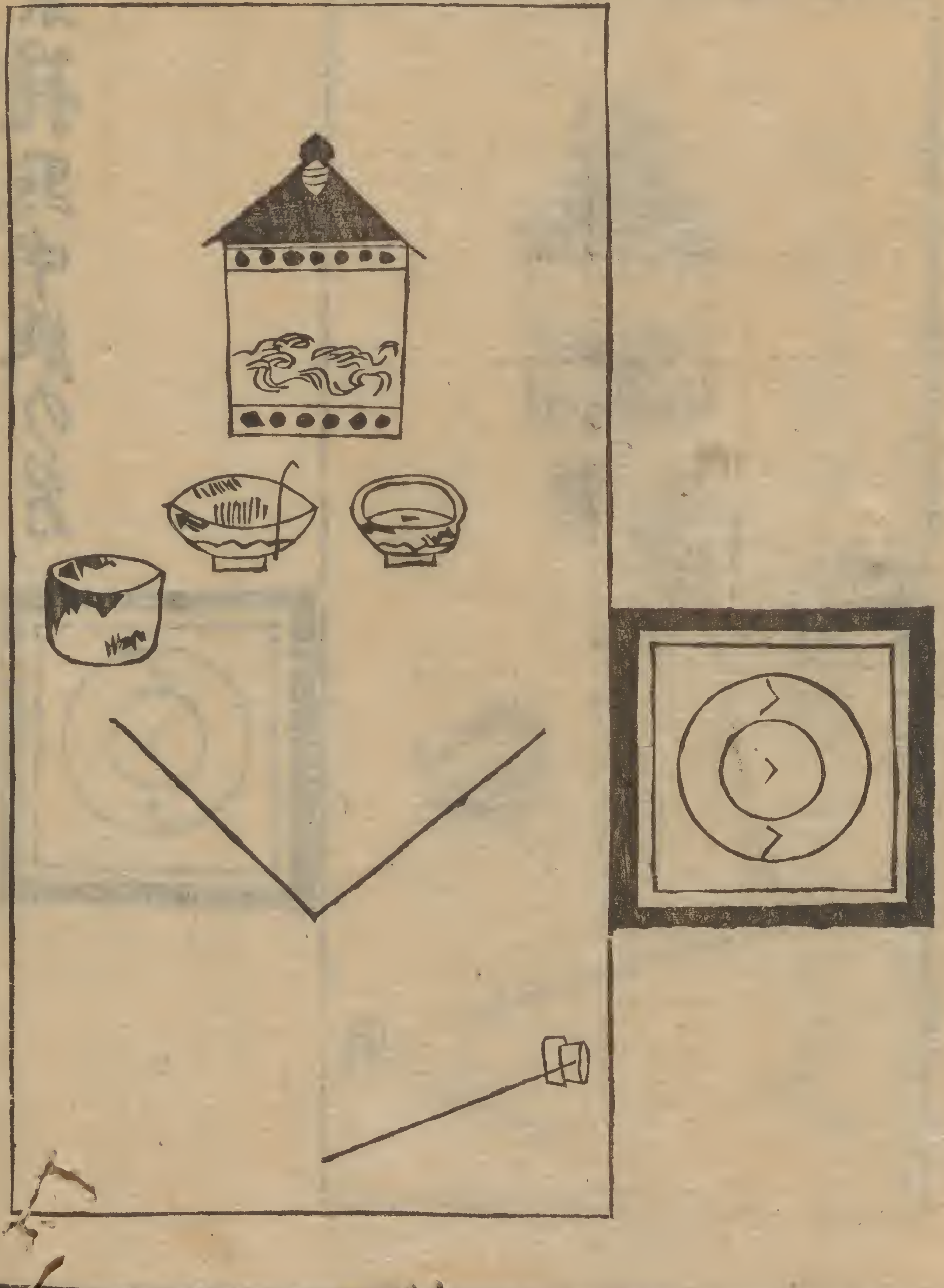
茶かくかる也 茶入ニ先あつかひ

なれ 茶ハたつる所ニ先茶杓を

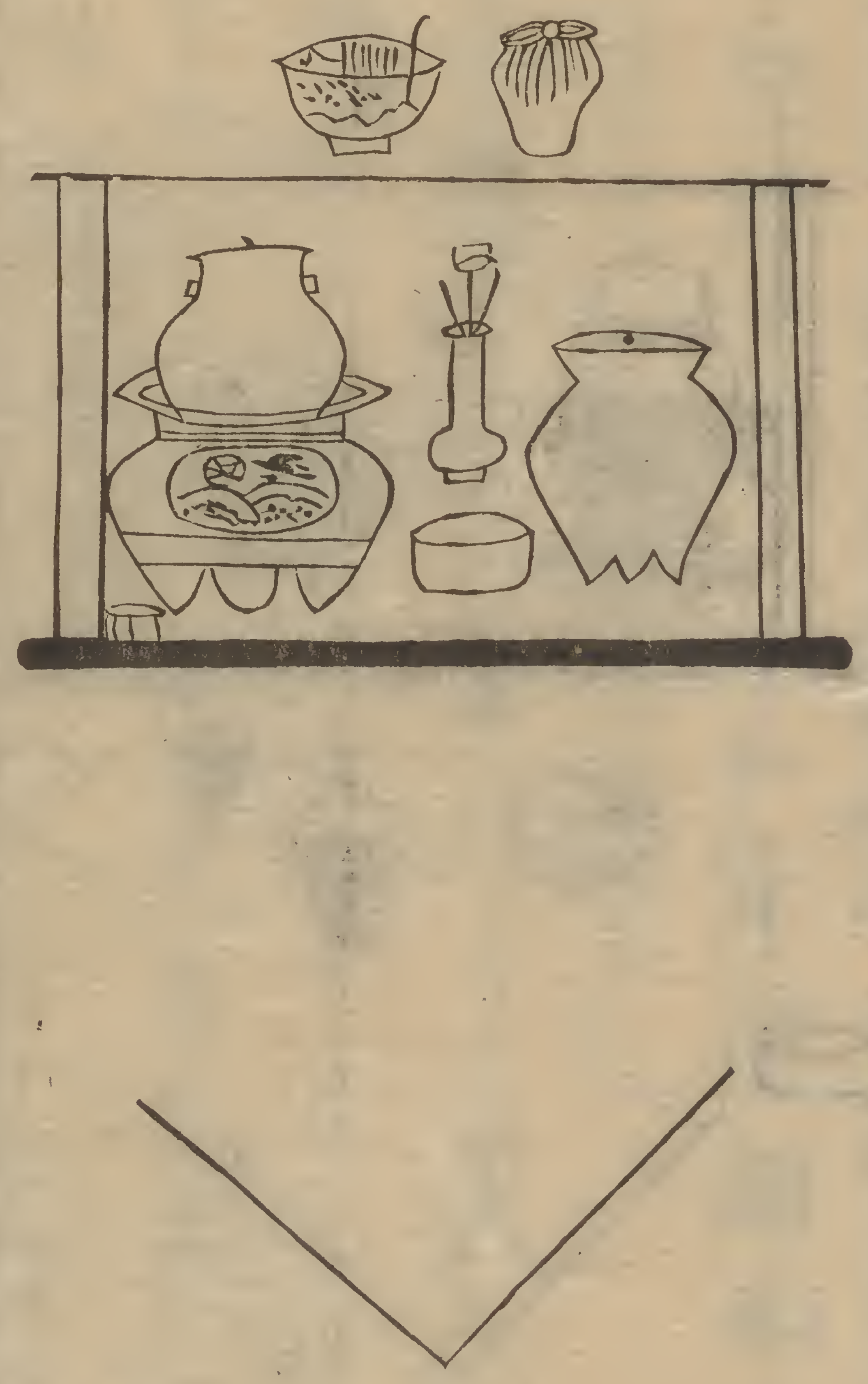
とりて茶碗より初ニ拭 茶入ニ紙

なれバ口伝

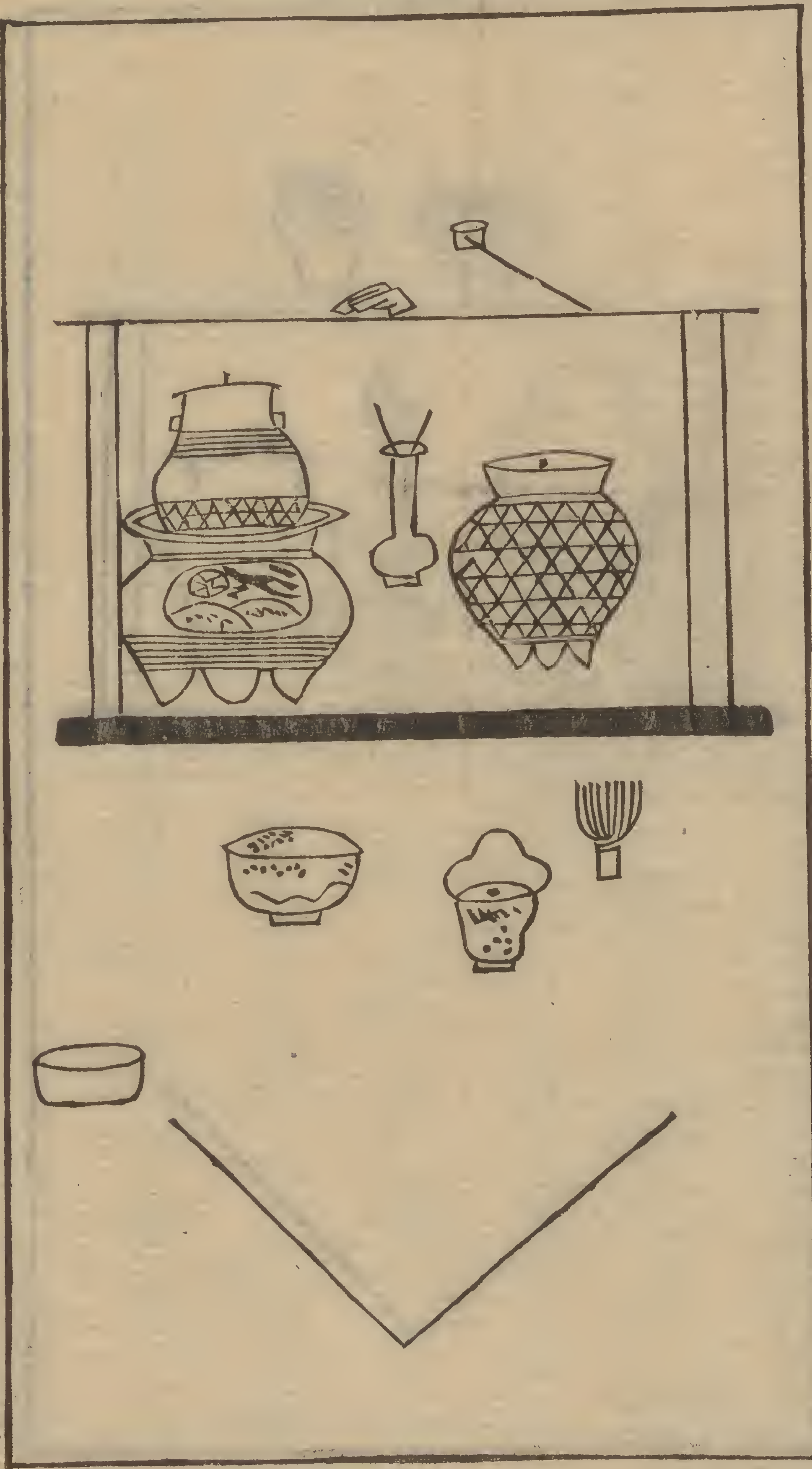
右ハ 二十九 丁
見中院 行ノ 巻



茶籠點下段ノ図

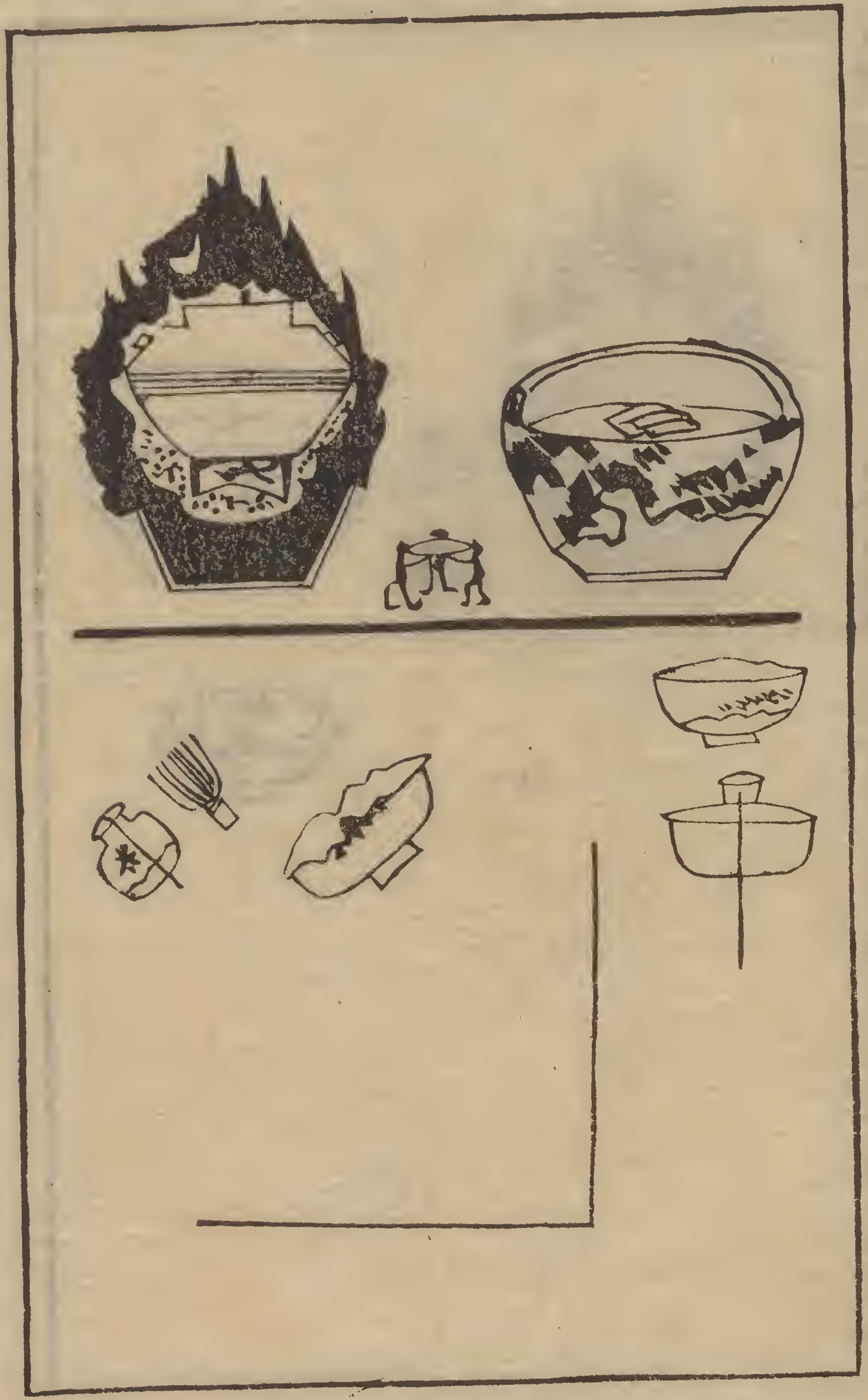


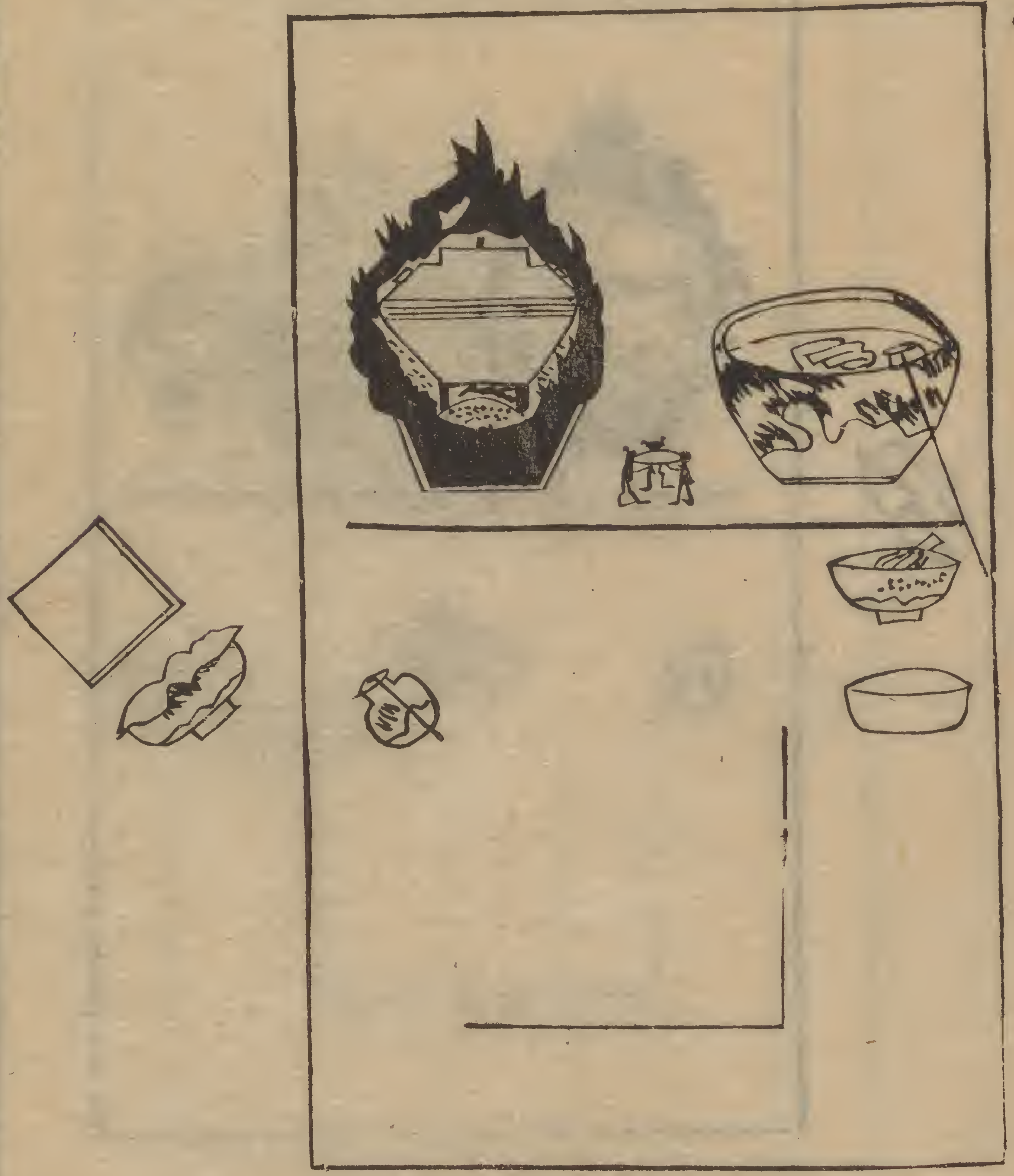
一此茶入は湯桶よりは広き物なれは
あつかひのしかた蓋の口は張付同
事也此三ツの外にも広蓋棚物なと
そのほかあまたも略し侍りぬ
一しはの點様は常のことく茶入れ
附たるごとく茶杓入れてこし別に置
まゐらせく茶入包みよくよく茶
入れ割蓋を置へきこと此品のごとく
上下の押あはせこれを拝み
ましめ申すへし茶入に添て三服

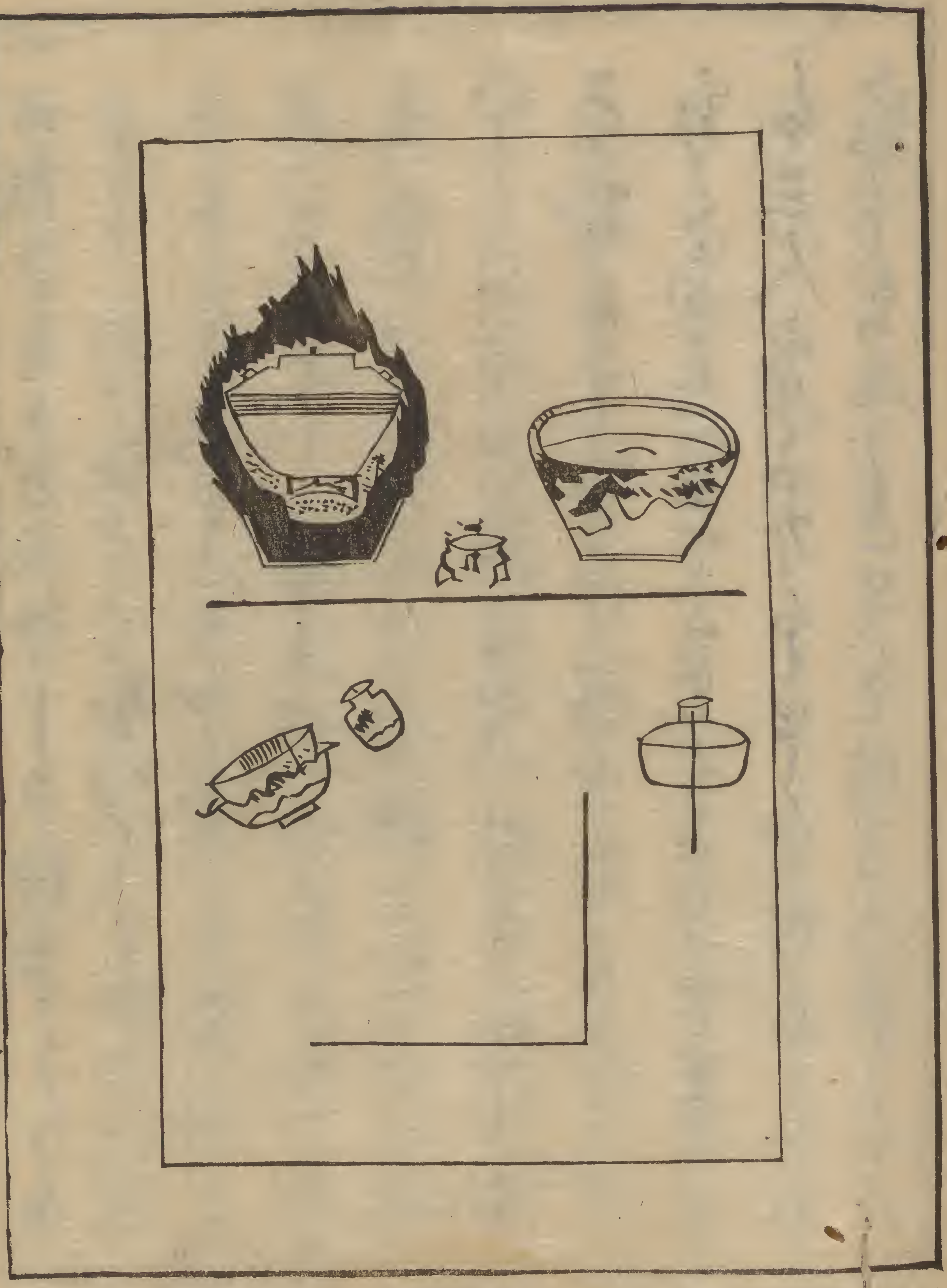


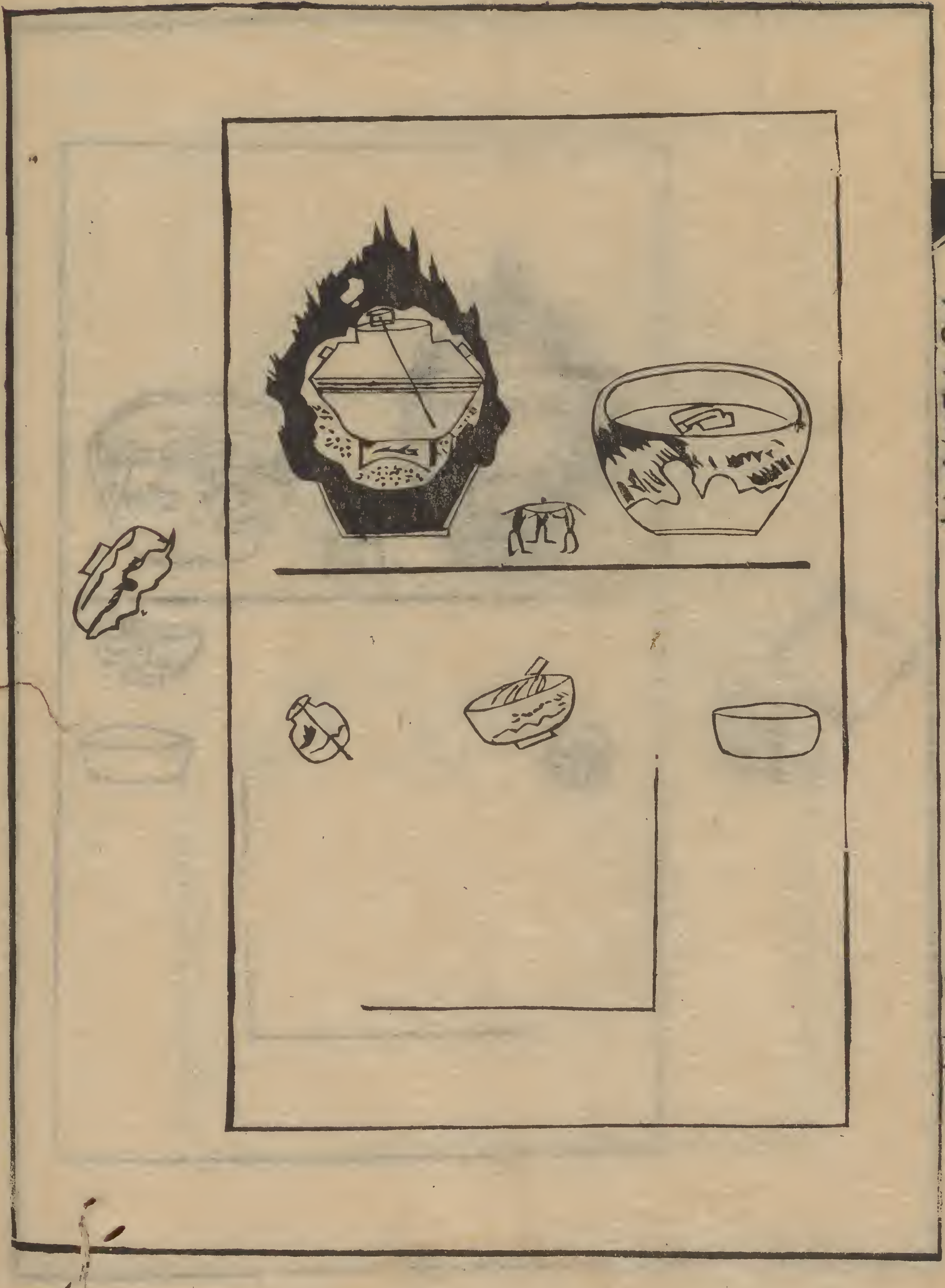
乃図又茶あるべき之　杉白洞玄

長板風炉重茶碗點の図









一此風炉ハ火風炉と云御手前ハ外を
見させたり口よりおつくとかさ様の
方ハ立置かきさめを立てくあいん
早く水入し其まゝ底をきうかなき
ろ茶ハ手付なく會備とさいのあ
いしらいなり劉盞乃時ハあを取
く葉にてうけ様をあようて見へ
ぬくあの重て立かくるなり茶盞
ハ三人唐子芥なり其を世にかくれ
家と云其うまつとは此方乃家ハにてハ

あ法のも差出は後茶にまる
一點花ハ湯のよりも茶碗手前ハ〆置く
有ろ盈ごしやくうけ柄杓端ほかに
居させなんして茶入をとりよく袱紗さバ
きして茶入湯乃ことく遣し茶杓
巾ひかけ茶谷なく〆あとにふて茶碗
手ればかしとり出し茶巾ハ取る茶
へよ茶盞かわへ入谷乃茶盞を口ふ
ゐし皆して湯二柄杓入谷
盞一然湯乃ことく茶の世よ注

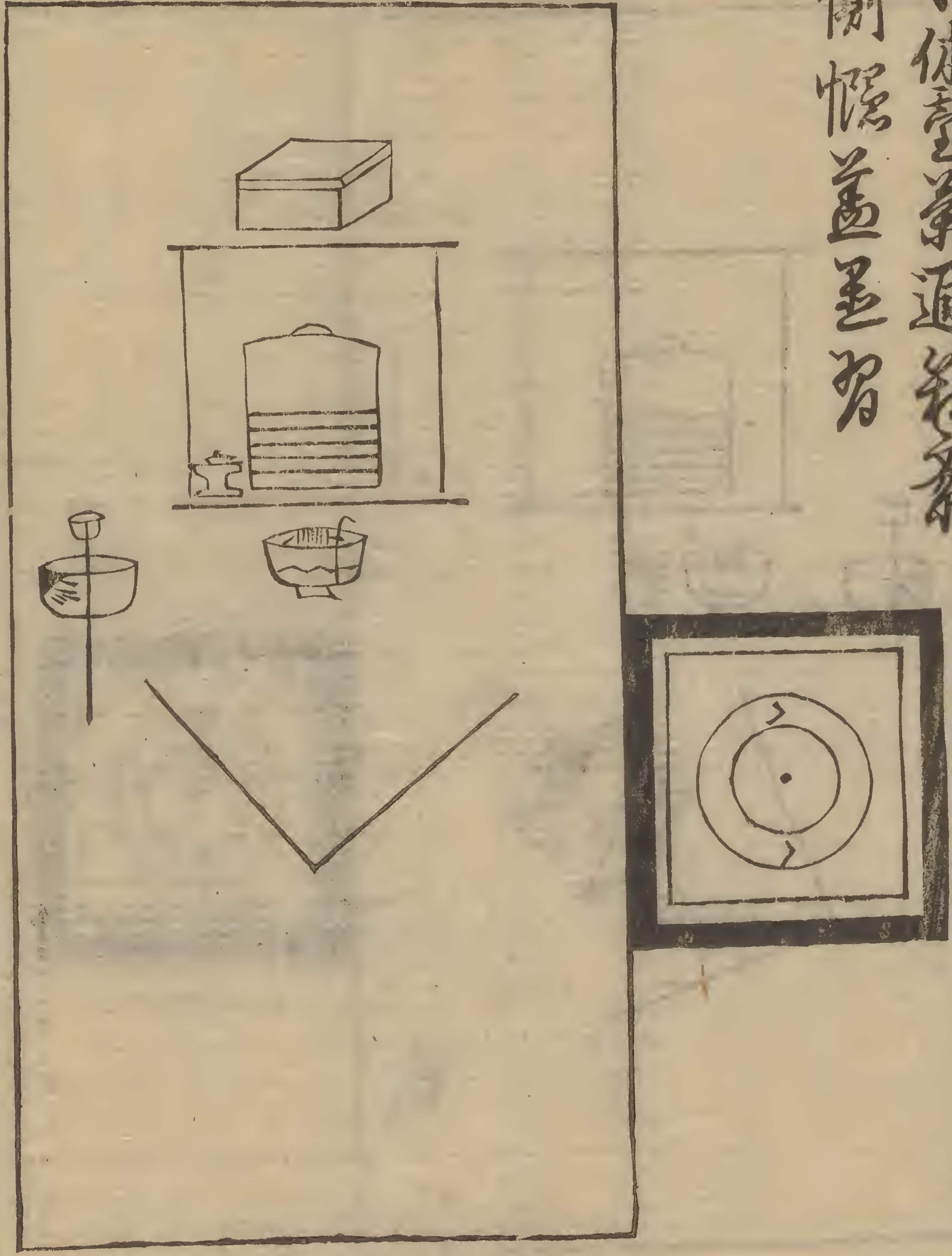
茶碗をそれにて盥のやうにあつかひて又帛
よく釜乃蓋を取湯二ツ入釜のふた
をおきてすゝにてよする茶碗に入て漱
乃よふにあつかふ茶碗に内にて湯
を二ツ入釜乃蓋をして先立をしく湯
のしをさうあつかひ又是より常の如く
あのとし茶巾あてまつる茶筌を
とくあつ盥よりよる茶碗にかけ
ふへしく茶碗にて帛(フクサ)にしくあつ
へあ扱釜乃蓋をしめ茶碗をとりあけし

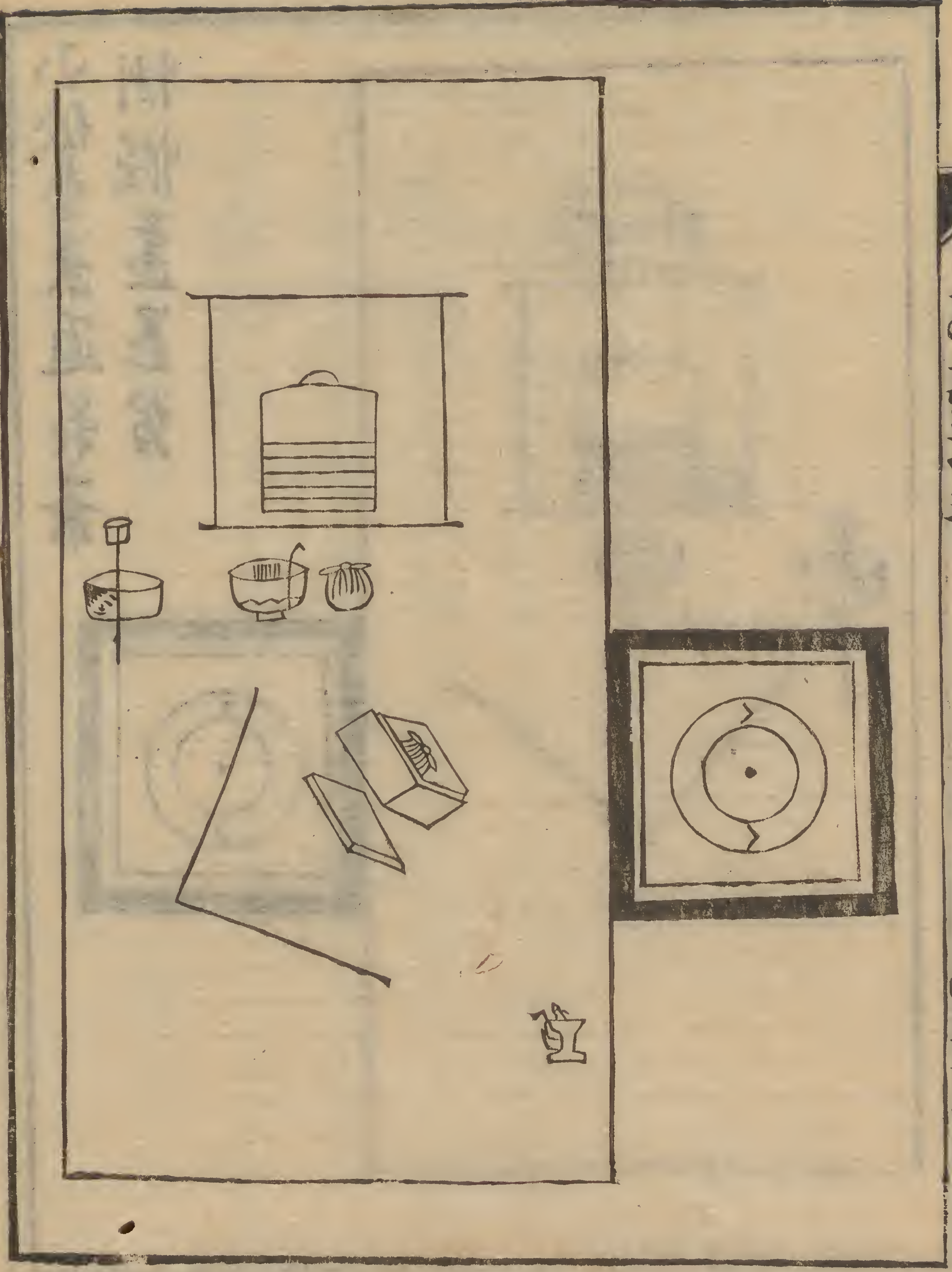
さらくと扱ひ是ハ常乃ごとく也茶を
點る事又帛をおし茶碗をおもて
置して是よりハ中仕廻してみぎの
茶盃をさし[illegible]先様へ茶
碗を湯をさしさうへて水盥
乃よふにあつかひ[illegible]茶碗かへりとこれ
よく湯すくさ茶せんにてすゝぎて
[illegible]のことく茶碗をこね
茶乃[illegible]茶[illegible]茶入
[illegible]

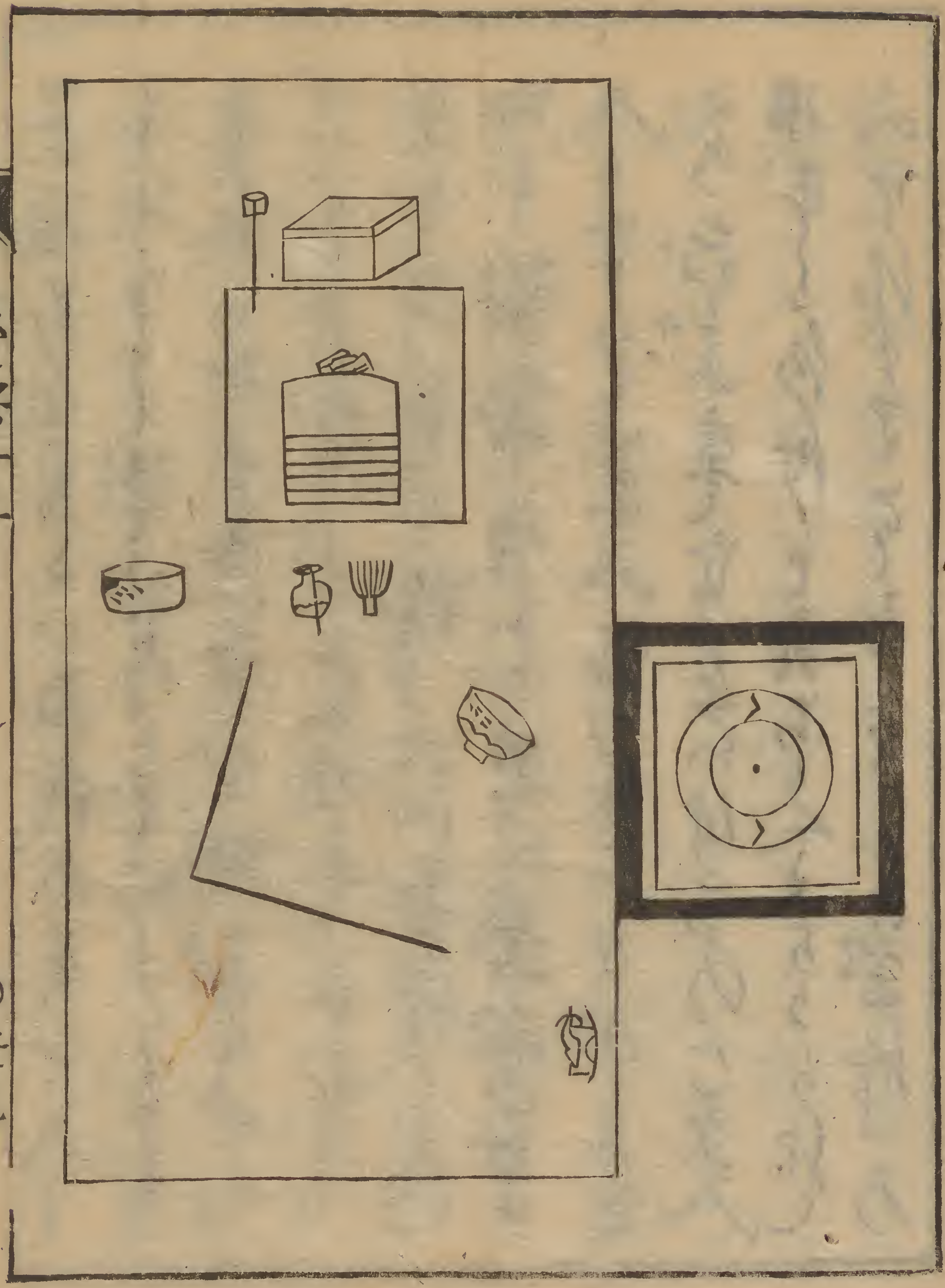
一 主ハ茶碗とりいだしたとへハ客十人
乃時も茶碗二ツにして二ふくたて
なるべし六人七人まてハ一ふくまても
通し
一 貴(キヤク)振(フリ)と申ハ上座ばかりにて済茶
二ふくめまでと見へは次座も上座
乃茶碗と同じやうくは次座より
も二ふくめ乃茶碗とも上座ても次座と
上座まで茶(サ)圖(ヅ)をせし中座分さして
出すものハかりきまる事後ものみ

切よ申へし茶入袋茶杓ハ一口ふくか
見合帛紗を上座より次へおくりそ乃
茶碗お内にもちのあいだとうくばかり
もちそゆる功(カツ)者(シヤ)乃入まじ
主 茶(チヤ)菓子(カサ子)とんちやせんとつけてあり候
こう狭とつもくさする座からそ

小依臺茶通名茶
棚帽蓋置習







一茶通箱を用る八由緒の茶を入るゝ
物なれバ譬ハ少あるまじき事なれど
家にハ所持の茶を挽器にハゆへ
ある事なれバ中次附のもの
用ゆる乃茶を挽されにあ由緒とまた
出し振舞なとと思ふ茶なれバ通箱に
入るなれバ茶入ハ我のあるもの
ゆゑ持參なるゆゑ其のハ茶入
あつるへ附と添ちかへにあるやうに
又客の方よりとゝのへし茶師乃

出て由緒附ちる茶通箱菱皮
籠に入る事也袋乃ことく横に
なし置もの也いあるなれバ
をむく點前ハなすも先棚に包ひ
箱を下し出れとく袋をときより
出る乃茶を主初て茶入に移
し茶碗となく箱の中にある
茶入と共に中へいれて蓋
をしめ先ず一乃ゆかりなたる
ようなことの茶の物の八常よりかうる

すし點仕廻茶入を出し炭をよく
おこりたる所にて炭をつぎて仕まひて
も菓子を出しそれより後ゐに出てもる
みなとなるべし又出して濃茶のごとく
茶菓を點じあとも同じ
一菱(ヒシ)皮(カハ)籠(コ)のかざりも同じ事なり
一側(ソク)懸(カケ)乃茶臺子とて上に升箇のよし
小児ののせるまゝ形(ナリ)なる棚(タナ)に茶
器に人形と白の方に並べ飾るなし
からの事人向へてかざるべし答式臺

をあつかふにも思ふにある人形の頭を
撫ふして胸のよくおく為なり
それを第一の事とも御心得なるべし
茶(チヤ)通(ツウ)箱(ハコ)茶入二つひとつあるなり
師傳(テン)にゆだねてかひあるべし

茶湯真之草子三之巻終